

第204回 友の会 嵯峨 観空寺谷

～なつかしの名優をしのんで～

日 時 2022年5月15日(日)

場 所 京都市右京区嵯峨観空寺谷 周辺

天 候 曇り

参加者 29名(内こども1名) スタッフ20名
合計49名



ニホンカワトンボ

金曜日まで雨の日が続いていましたが、観察会当日は、曇り、気温も20℃程度で気持ちの良い気候になりました。今日のコースは、大覚寺バス停の近くを起点に観空寺の集落から有栖川沿いのルートです。

大覚寺の庭園には、手入れのよくされたクロマツ、アカマツが植えられており、それぞれのマツから新枝が立つように伸びていました。新枝の雄花は落ちているものが多かったですが、先端に松ぼっくりのミニ版といった紫紅色の雌花をつけている枝がありました。

マツの新枝の伸びる様子を「緑立つ」と表現し俳句の季語になっています。

＜神木の 社を暗めて 緑立つ 稲畑廣太郎＞など多くの俳句に使われています。

溝や道ばたには、キツネノボタン、タネツケバナ、ナガバギシギシ、アカバナユウゲショウ、オヤブジラミなどがありました。

カキが枝にたくさんの花をつけていました。花がすべて実になるわけではなく、落下するものが多いです。6～7月頃、受粉して種ができなければ自ら実を落とします。また、実がつきすぎた場合、樹が弱ってしまわないように自ら実を落としたりします。これを生理的落果と言うそうです。その他病害虫によっても落果が起こるそうです。

遠くの山の所々に黄色いこんもりとした木が目立ちます。シイの木の花が一斉に咲いているためです。

集落の庭にはいろいろな花が植えられ目を楽しませてくれました。アラカシの垣根にはオトシブミに見られたり、アラカシハフクレフシのムシこぶも見られたりしました。有栖川の水の流れの中にクレソン、ミゾソバ、ツルヨシがありました。



観察風景



ヒメコウゾ

竹の先が折られた竹林があり、筍栽培用の竹林です。筍の生育には適度な太陽光が必要と言われています。そのため芯止めを行い竹の成長を止めることで無駄な枝や葉が付くことを阻止し、地面に太陽が当たりやすい環境を作るためだそうです。

竹やぶにはハハコグサ、マツバウンラン、コナスビ、トウバナの花が咲いていました。

林道に入ると、モチツツジ（変異種）の桃色の花、ツクバネウツギ、コツクバネウツギの白い花、さらには緑白色の花のモチツツジも見られました。緑色の実を付けたガマズミやスノキ、その他にもヤマウルシ、ムラサキシキブ、エゴノキなどがありました。

有栖川沿いの周りに大きなタブノキやヤナギがある広場を昼食場所としました。かつて、この広場は池波正太郎の時代小説「剣客商売」が映画化された際のロケ地に使われたそうです。



ハハコグサとテントウムシ



スノキ



モチツツジ

店開きでは、柿渋、タブノキ、アオイスミレ、ニホンミツバチ、オトシブミ、採集した植物等の説明が行われました。

<柿渋>

古くから家々には柿が植えられていましたが栽培の主流は渋柿でした。渋柿を干したり、焼酎を入れた袋に入れたりしておく、渋が抜けて甘くなります。非常食や保存食としたそうです。柿渋は柱などの建築材の防腐防虫・傘や団扇・蓑などの防水防虫、染料など広く用いられてきました。渋柿は様々な有用で効果があり、甘柿よりも重用されました



<タブノキ、アオイスミレ>

タブノキはクスノキ科の常緑の高木です。比較的温かい海岸沿いに生える植物ですが、寒さに弱く内陸には生育しにくいそうです。古くから樹霊信仰の対象とされており、各地に巨木が残っています。材は多岐に利用されており、かつては船材に使われていたそうです。

タブノキ

アオイスミレの花は春早く咲き、その後閉鎖花をつけます。果実は地表に転がるように熟し、種子は下にこぼれ落ちます。種子は白っぽい色をしており、大きなエライオソーム*を付けた種子はアリに運ばれることで散布されます。

*アリを誘引する物質。種子にでき白色、乳白色のゼリー状で、脂肪酸やアミノ酸などを多く含む。アリはエライオソームだけを食べる。



アオイスミレ

<ニホンミツバチ>

広場のヤナギに洞があり、ニホンミツバチが出入りしており、中に巣を造っているようです。巣の中にはふつう約1万匹の蜂がおり、女王バチ1匹と千匹程度の雄バチと雌の働きバチがいます。働きバチの仕事は育児・掃除・貯蜜・建築・採蜜があり、生まれた日数によって仕事を分担しているそうです。最初の仕事は育児で採蜜は最も日数の多いハチが担います。採蜜は巣の外に出て行う仕事であり敵に遭遇することがあるからだそうです。

春には、新しい女王バチが誕生すると巣を新しい女王バチに譲るため、元からの女王バチが雄バチや働きバチを連れて、新しい巣を求めて旅立ちをします。これを分封といいます。

ニホンミツバチはオオスズメバチに巣を襲われると、オオスズメバチに大勢のハチが取り囲みます。ハチに囲まれると巣の内部は46℃になり10分以内にオオスズメバチは熱死します。しかしニホンミツバチの寿命は4分の1なるそうです。

<オトシブミ>

オトシブミは自分の卵を守るためにゆりかごを作る習性があります。木に付いている葉っぱに切れ目を入れて折りたたんでいき、ゆりかごを作ります。その中に卵を産みつけます。子どもは葉っぱを食べながら成長していきます。

実際に葉をハサミで切りながらオトシブミを作っていただきました。

平安時代に自分が思いを寄せているけれども手紙を直接渡すことができない人が、思いの人が気づくようにわざと恋文を落として拾わせたそうです。

そのほかに、死んでいたカワトンボ、採集してきたツクバネウツギ、コツクバネウツギ、カキドオシ等の説明が行われました。



店開きの様子



ツクバネウツギ



観察風景

午後からも、有栖川に沿って登って行き、道すがらヤマナシの実やミヤコアオイとミズタビラコの花を観察。1 km程進んだ所から折り返しました。

2時50分頃スタート地点の大覚寺バス停付近に戻りました。交通の便も良く、過ごしやすい気候の中での観察会になりました。(梅田)



ヒメギス幼虫



ヤブムラサキ



シオヤトンボ



みなさん、ケガもなく無事終了となりました